

OB会ニュース

創刊号

昭和61年11月1日
関西大学ギタークラブ
OB会・発行



OB会機関紙

発行にあたって

先ず、発刊おめでとうございます。これ以外で、他の皆様の近況も少しながら、知り得ます。誠に結構な事と思います。

さて、この第一号紙が発刊されるにあたって、私は或る一人の男の事を書き、OB会の歴史に留めておかねばならないと思っております。

本人のプライベートの為に名を秘し、詳しくは申しませんが、大阪、今里に住む、色の黒い第4期の、某氏です。

今迄、OB会と言うものは無かつて、数年前に、前後のいきさつは少しありましたが、彼は本来のOB会設立という夢をどうしても実現したい強い気持ちになり突如行動を起しました。

その時点で、ギタークラブの卒業生は383名というものでした。当然、彼は4期ですので先輩達の1期からと、自分から下の7期生位迄の連絡は、比較的簡単に出来ました。が、あとは会った事もない若い後輩達の音信です。幸い、彼の同期の者や親しい後輩達の賛成と協力を得、いよいよあのギタークラブOB会設立へと行動を開始しました。

OB会会長 第3期 植田 淳一

はたの者が驚く程、彼は燃えたのです。あの黒い顔が赤くなる位……(後日の調査では、赤いのは二日酔いのせいでした)

そして何んと、最後の22期生迄、全国に至る会員の住所、勤務先、電話番号、ホモカレズカエイズ持カまでも遂に調べあげたのです。この努力や並大抵では出来ない事は、これを読んでおられる方はお分かりかと思えます。そして、不思議な事には、昔の彼の字を知っている者にとっては、連絡のハガキ等が、非常に達筆な文字で来るのです。あのいかかわしい、いや間違いない、いかつい彼の指でこんなに字が上手くなる苦がない。うーむ、そう、彼は風俗営業、いや間違いない、自営業という立場ながらも、奥様までも設立という仕事に巻込んでしまったのです。夥しい連絡のハガキ、封書、彼が書いたのは何のこっちゃ分らない全員383名の名簿の原稿、全て奥様の手によるものです。そう、この一家の一年以上もの続いた執念と努力の結果、我々は、あの2年前59年に、ミナミの「三吉」で、昔懐かしい皆と会いOB会設立にこぎつけたのでした。勿論、彼をとり巻く連中も連絡や印刷、当日

の進行等で大奮闘でした。そう言う私は、上に先輩が居られるにも拘わらず、あいつは天王寺で店をやっている、連絡も取り易い、会合する為にも集り易い、クラブ(当時は同好会)ができた頃の事も少し知つてるからと、とにかく、形を整えなければいかん、ちよつと堅い事言い過ぎるけど、あいつに決めつけ(注・傍点編集部という事になり、しかも、いつ動議が出されてフジになるかも分らんと念を押されて名ばかりの会長になつた次第です。彼と言へば、役職名は単なる幹事長というだけですが、全てをやってくれたのです。383名中、横浜、松本、名古屋、高松、因島等から、108名もの会員がはせ参じ、とうとうOB会が設立されました。大成功でした。皆が彼の情熱と執念と家族の犠牲に感謝をしました。或る男性は、感謝の余り彼に肉体まで捧げました……。

更に2年経つた今年も又、同じ場所「三吉」にて70名余り集めて再会を喜び2回目の総会をやつてのけたのです。

はつきり言つて、我々役員は、彼の情熱にほだされて後からついて行っている様なものです。

こうして、OB会ができて、これからも永遠に続いて行くには、ギタークラブ卒業生で、この彼の存在と偉大な行為を永久に刻みつけねばなりません。

ここ迄私が彼の事を一気に記録して責任を果した様ですが、最近、この彼も悩みだしたのです。愛人問題で、いや間違いない、先ず、各会員の転勤、結婚等で相変らず、名簿の書換が煩雑な事、年会費を払込む人が決つていて、払わない人はいつも払わない事、そして、若い会員が若い故か、こちらの真剣さに答えてくれず、連絡してもいつまでも返事が帰つて

来ない等々です。もう、次の世代に譲りたいという次第です。皆さん、これは、偉大なる彼への裏切りです。勿論、我々役員もOB会の認識を更に深める様にします。皆様もこの彼を落胆させない様にしましょう。その為には、たまには彼を、トルコ、いや間違いない、ソープランドに誘いましょう。天王寺にええ店が一軒、いや脱線!! そうです、OB会には彼なしでは設立できなかったのです。

高木先生ご勇退される!!

長年にわたりギタークラブの顧問としてお世話になりました高木秀玄部長教授が、来年の三月に、関西大学を退官される事になりました。在籍中の暖かい御支援に感謝し、今後の益々のご発展を切にお祈りしたいと思います。長い間、有難うございました。



いい名前、つけて下さい!
～機関紙タイトル求む～

創刊号はとりあえず「OB会ニュース」としてスタートしましたが、次号から、OB会機関紙にふさわしいタイトルを公募したいと思います。

採用者、他佳作の方には記念品を進呈いたします。

■応募方法
ハガキに、期名・ご住所・お名前を書いて下記へご郵送下さい。
*11月30日消印有効

OB会機関紙編集委員会

第2回OB会総会を終えて

第6期 上田 新平

あつという間に月日は流れ、2年ぶり2回目のOB会の集い。深酒OK・お泊まり可、9月の2連休初日の14日、日曜日。場所は前回と同じ南の三吉。役員の人達は始まる1時間半前の集合。特に4期の林氏は準備アシスタントに奥様を従えての臨戦体制。(美人の奥様、熱いコーヒーありがとございませう。)

林氏は、この日午前中はPTA男子ソフトボール部初の決勝戦出場監督との2役。こうろく様です。(めでたく優勝との事。)

三々五々、OB達が集まってくる。漆黒の髪が真っ白になった人、スリリと毛の抜け落ちた人、団塊の人、新人類達……、会場に入っていく、あちこちで懐旧の歓声が聞こえる。定刻の3時をすこし過ぎて総会が始まった。今日の集いの総合同会役は9期の竹本氏。開会の辞、植田会長の挨拶に続き、場内推選の声で植田氏が総会議長となり、まず事業報告。

総勢74名が出席されました。



第2回総会ご出席者ご芳名(敬称略)

<p>〈第2期〉 柳田 周祐 岩井 英二 楠見 博一</p> <p>〈第3期〉 大見 学 植田 淳一 西側 圭治 松本 俊介</p> <p>〈第4期〉 尻池 顕謙 中村日出夫 本安 知 松田 英輔 八島 威 林 清治</p> <p>〈第5期〉 吉岡 正代 山本 俊明 河上 松夫 白井 彰夫 森本 英南 須知 佑輔 横山 忠</p>	<p>〈第6期〉 藤 勉 上田 新平 西尾 保弘 山口 幸一 大田 憲 堀 雅人 西島 邦夫 堀杉 俊治 高山 彰輝 高田 正和 前田 由美子 中東 秋子</p> <p>〈第7期〉 金鍋 清和 半谷 孝之 富川 真一 金鍋 惠津子 富岡 和夫</p> <p>〈第8期〉 松本 卓二</p>	<p>〈第9期〉 福生 哲夫 井上 享 大家 通孝 高本 健児 田浦 真一 竹本 真一 藤井 隆</p> <p>〈第10期〉 中村 逸三 西尾 義典 小柳 豊茂 浅野 一則 篠田 年晴</p> <p>〈第12期〉 江袋 芳味 青木 敬明 吉田 高明</p> <p>〈第13期〉 岸本 孝司 久留島 武司 田中 淳志 辻本 恒一 土居 宏文</p>	<p>〈第14期〉 山口 勉 江島 茂</p> <p>〈第15期〉 橋本 正行 小比賀裕見子</p> <p>〈第16期〉 遠藤 厚 金岡 景太</p> <p>〈第18期〉 池田 義明 上月 孝一 白川 義勝 高松 太</p> <p>〈第19期〉 木村 浩三 前田 佳宣 松尾 則弘</p> <p>〈第20期〉 佐藤 洋 田中 忍 玉井 隆史</p>
--	--	---	--



会計報告は6期西尾氏より、続いて4期八島氏よりの監査報告。続いての役員改選については現状維持が会場異議なしの承認を受ける。総会プログラムで顧問の高木教授は急な用で欠席、又、現役部員は合宿と重なり共に挨拶は略。最後に機関紙委員長の高木氏よりの挨拶と協力依頼があり、閉会の辞となる。懇親会場に席を移動し、記念写真の撮影の後、各期毎に決められた席に着く。竹本氏よりの開宴の辞に続き、長老格2期柳田氏の乾杯の音頭で大宴会の幕が開く。三吉の料理とビールでお腹が落ち着いた頃、定例の各期毎の出席者紹介とスピーチが始まる。会場ステージで大先輩方からOBなりたてまで次々と楽しい話が聞ける。関大ギタークラブの生活を経験した人達が社会人となって広い世間に散り、それが今、これだけの太

勢で一同に会して共に酒を飲み、語り合える場に改めて感動し、また心強い仲間意識を感じさせられます。司会の竹本氏より「皆さん今日はギターがあります。各期毎に我と思う人は現在の腕を披露して下さい。」との事。静まりかえった場内、全員固唾をのむ中、見よ！2期岩井氏がステージの椅子に腰かけ、ギターを手にされた。そして懐しい、心暖まるギターの音、メロディーが場内に流れ始めました。こうして各期の代表が皆ギターを手にとり、さわりの8小節のみの人、ホントにギターをさわっただけの人、一曲完奏した人と、とても楽しく、素晴らしいギター音楽の一刻がもてました。この後はダンスする人、カラオケする人、同輩、先輩、後輩と語り合う人、場内熱気と談笑の渦に包まれました。締めくくりは、全員肩を組み、関西大学学歌、逍遙歌を歌い、そして万歳三唱で第2回OB会は盛会のうちに閉会となりました。

(宴会場でのスナップ)



さすが元コンマス、
「魔笛」もら〜くら〜ク
オヤ!



現役には負けんぞ、2期岩井さん



10弦ギターでないともも子。

ギターもスキーも現役です!

第21期 米川 敏明

はじめまして、いつも集まりの悪い21期生です。集まりの悪いのは、卒業して間もなく、皆独身で自由なので横のつながりがまだ残っている為、と寛大な心でお許し下さいませ。という私も、また結婚の予定もなく(相手もなく)毎週土曜日ともなれば、同期生や後輩を集めて遊び呆けております。これを書きながらも数日後に現役の夏合宿へ行く事が頭から離れません。

話はかわって本年も正月スキーツアーを計画中です。昨年は、現役も含めて二十数名という人数でしたが今年はどうなりますやら。日程は、一応12月20日から1月3日となっておりますがご希望に応じますので、万一ご希望の方はどうぞ。

又、個人的に音楽活動も続けておりまして今年度も3月15日に郵便貯金ホールにて定期演奏会の予定ですので暇を持て余していらっしやる方はどうぞお越し下さい。

なにぶん生意気な私達ではございますが、これからもよろしく御指導の程お願い申し上げます。

機関紙に関するご意見・ご希望をお寄せ下さい。
今回、読まれてお気付きの点やいい案などあれば下記まで。又、次回から編集に参画されたい方、おられましたらお申し出下さい。
OB会機関紙編集委員会

お願い
この度、OB会々費の振込用紙を送付致しました。OB会は皆様の会費により成り立っております。何卒、期日までに振込み下さいませ様、お願い申し上げます。

社会人一年生

第23期 中村 友昭

ある夜、電話料金が割り引きされる時刻に大阪から電話がかかってきました。相手は幹事(中尾)でOB会機関紙の原稿を書いてくれとのこと。口のうまい幹事にだまされて、頭を悩ませながら筆を進めているわけです。

今年の春、大学を無事卒業し、今は社会人一年生として、日夜仕事に頑張っています。

一年生と言えば、学生時代は楽でした。先輩の後をついて、かわいがってもらえばよかったんですから。「先輩、せんばーい」と言っていた同じ口から時が経つと、「あの先輩は……」と先輩振るのもおもしろいものです。

しかし、社会人一年生は少し違います。シビアです。厳しいです。実力の世界です。甘えることはできません。なんてオーバーかな結構、楽しんでいきます。只、朝早く起きるのがつらいくらいかな。

会社は大阪本社ですので、しばしば大阪に

皆さん、元気ですか!

第13期 谷本 陽男

私達の年代は、社会においても家庭においても、そろそろ忙がしい時期にあたりはじめたためか、なかなか十三期の友人とは、顔を合わす機会が少なくなってきました。また、ギターを手にするようなこともなくなってきました。学生時代のことを思うにつけ、あまりの変わりように、ただ、自分自身驚くばかりです。

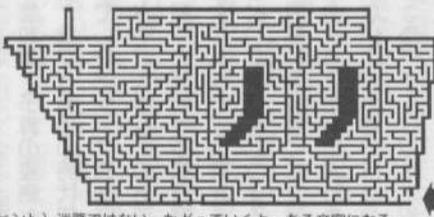
さて、何を書こうか、私の暮らしぶりでも書こうか、しかし、つまらない私のことなんかは、ほとんどのOBの方々にとって読みた

出向くことがあります。その時はOB一年生として暖かく迎えて下さい。また、暇がありましたら愛知の東三河地方の大都市、豊川にお寄り下さい。

PS、来年はお前たちの誰かだぜ、原稿書くのは……中尾、前田、岩崎、国枝、小林森、渡辺、林……なんだって俺たち男の人しかないんだから……。よろしく。

CHALLENGE QUIZ!

暗をもてあましている諸君/そう、そうキミの事だ。あくびばかりしないで下の図を見たまえ。一見して船の様に見えるだろうが、実は違うんだ。とにかく中に入ってみたまえ。恐いものもあるが、オバケ屋敷ではない。かわいいものもある。サテ何だ? 正解者には賞金10万円、なんてあり得ない。OB会にはそんな予算はないのだ/自分の金で温泉にでも行ってきたまえ。あの森田健作だってオッサンのくせに青春している。キミもチャレンジしてみよう!



(ヒント) 迷路ではない。たどっていくと、ある文字になる。答は、最後のページ下段にひっそりと書かれている。

くもない原稿になるかと記事について思いめぐらしているうちに、とうとう十四日になってしまいました。明日がしめきり日なのですが……。

今、原稿用紙をうめながら、これができあがればOB会に行ってみようか。しかし、まだまにあうだろうか。久留島氏も土居氏も行くそう。しばらくぶりなので顔を見てみたいものだ。大阪も長い間、行ってないし。ほんとうに、わけのわからない雑文になってしまい、申し分ないような気もするが、これを送らせてもらおう。

最後に……、私は、OB会に行つたと思えますか? みなさん。

現役 SPOT

関西大学ギタークラブ

がんばってます!!

定演に向けて

二・三回生小合奏 指揮者 法学部三回生 松本 純也

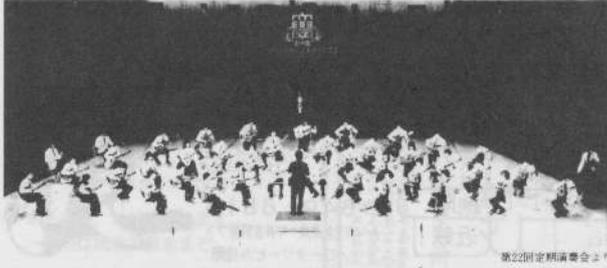
暑い日が続く中で、夏合宿のための強化練習が始まった。長かった休みが明けて、まず部員のひとりひとり、休み前とは違っていることに驚かされた。四月に入部して初めてギターを握り、満足な音も出せなかった一回生が、立派に曲を弾きこなすようになった。今まで上級生の言われるままについてきていた一回生も、自分たちから積極的に参加しようとする意欲が出てくるようになり、眼の色が変わってきた。クラブを引っ張る立場の二回生も、それぞれの持つ役割をつかみ、以前

に比べるとスムーズに行動できるようになった。四回生の先輩方も卒業を控え、クラブとの別れを意識してか、少し緊張した様子である。そのような中で、今年も定期演奏会に向けての第一歩がスタートした。現在の部員が生まれる前から続いている定演も年々の部員の減少で、以前のように百名に近い人数での合奏は不可能になり、こうした傾向に歯止めをかけることもまた難しい。しかし、ほとんどの部員は本格的なホールのステージに立つことは一生のうち何度もないだろう。それぞれの定演に対する想いは違つだろうが、数少ないチャンスの中で、これからの練習を通じて、ひとりひとりがさらにどう変わっていくか、楽しみである。

今年の主な行事

- 2月25日 4回生 サヨナラコンサート
- 4回生 追い出しコンパ(梅田ニューミュンヘン)
- 3月12日~19日 春合宿(鉢伏高原・白樺館)
- 4月10日 新入生歓迎演奏会(関西大学 特別講堂)
- 4月13日 立命館大学との交歓発表会(立命館・以学館)
- 4月28日~30日 新入生歓迎オノ!エンターション (羽衣青少年センター)
- 5月23日 第19回 独重奏演奏会(森の宮青少年会館)
- 6月25日 関西学生ギター連盟第23回定期合同演奏会 (森の宮ピロティールホール)
- 9月9日~17日 夏合宿(野尻湖 野田屋ホテル)
- 10月11日・12日 第1次強化合宿
- 11月3日・4日 第2次強化合宿
- 11月15日 第24回定期演奏会 (吹田市文化会館 メイシアター)

OBのみなさん! 定演に全員参加し、惜しめない拍手を!



第24回定期演奏会より

“女子部員第一号”

第5期 吉岡 正代

第二回OB会では、卒業以来の岩井先輩や同期の横山氏など懐かしい方々にお会いできてとても楽しいひとときをすごしました。

昭和三十七年六月に発足した我ギタークラブに、ただくギター音楽にあらがれていた私が入部したのは三十九年四月でした。

後日談ですが、女子部員を入れるか入れないかで諸先輩の間ではケンケンガクガクの議論があつたそうです。そんなこともつゆしらずのびのびと四年間を大いに楽しみ、ギターの腕も上がらずじまいで女子OB第一号になつた次第です。その間男子部員諸氏には、いろいろ御親切にいただき感謝の念に絶えません。

当時の関大は、今では想像もつかないことですが女子学生は本当に少なかつたのです。一般教養の体育など全学部一緒にやるわけ（しかも長刀のみ）、それでも四・五十名しかありませんでした。今立派な図書館ができた第一グラウンドをランニングする時など、観覧席から（品下げる）声飛ばない日はありませんでした。

そんな中でのクラブ生活……。

秋の強化合宿で浜寺青少年の家へ始めて行った時、あの広い米軍キャンプ跡の宿舎の棟に一人で泊つた折など心も縮む思いでした。しかもトイレは外、消灯十時で真暗になつたカビ臭い部屋、いくつも並んだ二段ベッドの一つに腰かけて、風の音、ドアのきしむ音に耳をそばたてて、まんじりともしない一夜もありました。でもそれも一年だけ、次の年から年々女子部員は増え、現在の華やかな（最近少し陰りのみえる）関大ギタークラブへと

発展したのであります。

ちなみに私の一年次の定演のパートは、ラテンサンパールのマラカスとクラブバス、おもちの交響曲」のトライアンブルでした。夢は小一の息子が大きくなつた時、一緒にギターを弾くことです。

激動の幹部時代と東京公演

第8期 松本 卓二

私たちが現役の際に、現在の部室や練習場が完成しました。その頃では部員数の割には部室は狭かつたですが、真新しい外壁、新築独特のキーンと鼻をつく臭い、そしてなによりもその部室や練習場を使用できる喜びで胸がいっぱいでした。それもつかの間で、全国的な例にもれず我が関西大学も学生運動の渦にまきこまれ、学園封鎖、予算の凍結という状態になりました。我々が幹部の時代として毎日苦勞の連続でした。クラブ活動に集中できない苛立たしさや、大学近くのお寺、幼稚園、公民館等、転々と移転する練習場の確保や、そしてなによりもクラブの存在そのものも問題になるなど、クラブをどうするのガバストであるが、幹部一同夜遅くまで話し合つたことが、昨日のように想い出されます。私が一番忘れられないのが単独で行なつた東京公演のことでしょう。チーフマネージャーの山本広助君と共に、東京に行き、会場探しから、パンフレットの広告取り、法政大学ギタークラブとの接触や、チケットの依頼、大阪では、校友会会長に御会いして援助の御願いや、それこそ東奔西走の日々でした。何度大阪―東京間を往復したことか。

東京公演の時、司会をして下さつた法政大学ギター部の、笹倉邦啓君には、関東の沢山のギター連盟を紹介していただき、大変御世



なつかしい尚志館の旧部室



(写真右) 東京公演ポスター
(写真上) 九段会館で開演を待つ観客
(写真下) ビバシティのギター協奏曲を演奏する第7期 佐藤文夫氏



話になりました。公演の成功には、部員の協力は、もちろんですが、彼の友情がなければもつと苦勞していただと思ひます。

（大小宴会承ります。）

- 結婚式 ■ご披露宴 ■お見合い ■ご結納式
- 慶事ごと ■新築祝 ■バースデーパーティ
- ブッフェパーティ(立食パーティ) ■昼食会
- 晩餐会 ■同窓会 ■クラス会 ■謝恩会
- テーブルマナー講習会 ■会議 ■ゼミナール
- 展示会 出張パーティ承ります。

三吉

■千林本店 千林2丁目14-22 京阪千林駅前 PHONE:06(952)2046

■南本店 大阪市南区三津寺町6番地 PHONE:06(213)7041-2

COFFEE TIME
★ 10:00AM~6:00PM ★

PUB TIME
★ 5:00PM~11:00PM ★

MODERN JAZZ トップノール

ホテル エコー 天王寺 近鉄
アペロ 地階 近鉄

☎ 649-6816
あへの交差点角・牛井吉野屋ウラ
アペロ・タリービル地階

OB会に出席して

第4期 尻池 顯識

卒業以来の二十年は、高度成長期、石油ショック、不透明の時代、円高と、不安定な景気変動の中、大海の木の葉の如く翻弄されながら、アツという間に過ぎ去りました。

年々歳々の一つくを思い迎れば、結構充実していた様にも思えますが、感覚的には、瞬時に過ぎ、徒に、年令を山積したに過ぎないな、という自責の念に、落ち込みます。

この二十年を区切りに、一層躍進せねば、という士気の昂揚と、他方、もう疲れてあかんなわという挫折感との日替る中、二年振りのOB会へ出席させていただきました。

高木教授、高松顧問の御欠席は残念ではありましたが遠来の思わぬ人との再会、懐かしい卒業以来の顔に接すると、一気に現役時に戻れた感じで、何んとなく話す表情も若やいで、異様に興奮している自分に、気が付きませんでした。

私達の、現役時代のギター合奏の集大成とも言える、バツハの二短調組曲の旋律、空を駆け巡る様な、フルートの響、レキントギターの音色、指揮者の癖、自分の爪の掛かり具合、千成食堂の野菜炊めの揚げ立つにおい、練習時の椅子の堅さ、パート練習のノリの悪さ、休憩時の馬鹿話、雨の日の音の湿り、タバコのスー

A)の苦み、

本番前の緊張した頬の赤さ、調弦の狂っている焦り、自



憧れ、演奏会の幕間のさわめき、もろった花束の美しさ、どれもこれも、全て鮮明に蘇りました。あれもこれも全てが青春でした。

OB会当日の、ビールの味も、合宿明けのコンパでのビールの味も、混沌とし、キョトンとした胸の痛みに、完全に酔っぱらいました。

良き時代でした

第11期 井上 正彦

僕が関大に入学したのは、前年の東大の入学試験が中止となる様な大学紛争も下火になろうとしている年でした。それでも、まだ紛争はあって、2年の時の後期試験と、4年の時の前期試験はレポート試験であったと記憶しています。又、就職も前年の二クソソシヨックや就職決定後のオイルショックのちょうど間で、順調に決まりました。ですから、いつも広き門で試験を受けて来ましたし、危い時はレポート試験で救われました。例えて話しますと、溺れかかた人かやつと岩にたどり着いたら、大きな波が来て岩の上まで運んでくれて、岩の上に立つたら、近くを走っている船が見つけてくれたとも言います。うか、幸運の連続でした。その様な幸運に恵れたおかげでクラブ活動の方は大変充実していたと思います。良い友人や、先輩・後輩にめぐり会えた事に感謝しています。今、振り返ってみても、すばらしい日々であったと思います。

最後になりましたが、ギターの方は試験の様な幸運には恵まれません。それでも、何とかドレミファソラシドが弾ける様になつたおかげで、昨今は、ギターでカラオケの新曲を飲み会の前には弾いて覚えていきます。これまた、安くカラオケの練習が出来る事を感謝しています。

ギタークラブの思い出

第6期 藤野 雅男

卒業して早や十七年、妻と中3、小6の一人一女を扶養する平凡な社会人となりました。光陰天の如し、あつという間に過ぎた歳月を感じます。その遠く過ぎた歳月も学生時代、特にギタークラブの想い出は、今でも鮮明に脳裡に焼き付いています。音楽の素養もなく、クラブ活動といえは運動部しか経験のない人間が、ギタークラブに入部した時、両親や友人がどこか身体が悪いのではないかと、大層心配してくれたそうです。ギターとの出会いは、高校卒業間近に友人が教室で奏してくれた古賀メロデー、禁じられた遊び他、なんとセンチメンタルな調べ、訴えるような音色なかと、魅入られたのです。しかし入部してからが大変でした。家にあつた兄の古いスチールギターを持っていき先輩に苦笑されたり、楽譜になかなか慣れず、又、つき指で太く変形した指が思うように弦をとらえきれず、毎日緊張と不安の連続でした。こんな難しい楽器は俺には無理だ、何度辞めようかと思いましたが、そんな時、辛抱強く、あたたかく励まして下さった先輩と、同じ悩みをぶつけてくれた仲間達がいたからこそ、続いた4年間でした。そして下手の横好きが、好きこそもの上手なれと成長へと本人は思っているものでした。授業もそこそこ、ひたすらクラブ活動に没頭した日々のお陰で、社会に出てからは、勉強不足を痛感しましたが、それ以上に、クラブ活動の経験、仲間達との苦労やいろんな出来事が、今の私の人生の、大切な味付けになっていると感謝しています。



●ギター音楽の店

スペイン風 居酒屋 **グラナダ** 日宝東阪急 レジャービル

〒530 大阪市北区神山町8-14(日宝東阪急レジャービル4F)

☎(06)314-1267

毎週土曜日 クラシック ミニコンサート
7:30~9:00 フラメンコ

■OBの方も出演されます。ぜひご来店ください。
61.12.13 第16期 坂田 年正氏
62.2.7 第17期 森兼 弘氏、岡本 克之氏2重奏

明・氷・金ギター弾き語り 猪居 信之
木・田クラシックギター

ワインルーム **セニョリタ** ●宴会・パーティーなどどうぞ!
民芸酒庵 団体貸切専用 **恋路**

不動産鑑定士・第9期

おの 大家 通 孝

株式会社 協同鑑定所
代表取締役

国土庁土地鑑定士
兵庫県土地鑑定士
神戸地方裁判所鑑定委員
神戸地方裁判所不動産鑑定士
伊丹支部・社支部・柏原支部・神山支部・不動産鑑定士個人

〈広告募集!〉

あなたの会社、お店などのPRに広告欄をご利用下さい。サイズ・料金は次の通りです。(約500部発行します。)

1段全面.....8,000円
1段1/2.....5,000円
(右・グラナダさんのサイズです。)

1段1/4.....3,000円
(右・大家さんのサイズです。)

*その他、ご相談承ります。詳細は編集委員会まで

私の「アルハンブラの想い出」

〜スペイン紀行より〜 第3期 西側 圭治

1986年1月2日午前10時の少し前に、私は前方のアルヒベス広場越しにアルカサバ、右手ハメドの塔の彼方にアルバイシンの丘、右後方に宮殿内への入口メスアールの宮殿、カルロス五世宮殿を背に立っていた。

はるか昔タルレガのアルハンブラの想い出を聞いた時、何とかこの一曲を自分で弾ける様になりたくて願った時から、一度は訪れたいと考えていた宮殿に、とうとうやって来た。それにしても今日の天気はどうだ。冷たい雨が降り、雪までまじって寒いのだ。辺りは薄暗い。目前の城壁のペラの塔が黒い影の様に突立っている。宝右衛門と唱われるアルバイシンは、ほんやりと焦点の外れた写真の如く動かない。改めて、今度の旅は、冬の旅であることを知った。

老婆の開場を告げる声に招かれて宮殿入口より入場した。この日の入場者一番乗りである。メスアールの宮殿からコマレスの宮殿、アラヤナスのバティオ、ライオンのバティオ更に、リンダハラの望楼を経て、カルロス五世宮殿を見て、バルタルの庭を通り、私はヘネリッパへ向った。これら宮殿を見物した驚きと、感動を託すのは別の機会に譲るとする。離宮の取掛りは野外劇場である。舞台上向って並んでいるベンチは雨に濡れ、さびしげである。更に庭園は、見事に刈り整えられた糸杉の壁が、この季節、赤色の混った緑で冬でなければ、庭園の中央の長く連なる細い池に、空の青と色彩を競い、まわりに置かれた鉢植の花の色を奪い合うのではなからうか。敷石模様の上を、刈り整えられた壁に沿って、

いくつかのアーチを抜けて、私は、辿り着いたアセキアのバティオに。ここが、あのタルレガのアルハンブラの想い出の曲想が生まれたと云う庭園なのだ。一列に並んだ二つの細長い幅1メートル位の池に、両側から吹き上げた噴水の水が、絶え間なく水面に無数の水紋を描き出しては消えている。これなのだ。これがトレモロなのだ。この細長い庭園の両側の回廊に並ぶアーチが、アルベジオになったのであろう。

冬の暗く寒いアセキアのバティオ、この庭に響くトレモロの音は、美しくも寂しい。

〈旅行日程〉

- S. 60. 12. 30 出発
- 12. 31 マドリード着
- S. 61. 1. 1 アビラ、セゴビア、夜グラナダへ夜行列車
- 1. 2 グラナダ着
- 1. 3 グラナダ
- 1. 4 グラナダ〜夜、空路マドリードへ
- 1. 5 トレド貴物
- 1. 6 マドリード市内
- 1. 7 帰途へ



ライオンのバティオにて

私はこの季節にアルハンブラを訪れたのを少し悔いていたが、今は、本当に素晴らしい季節に来たと思つた。今私の耳に聞こえるトレモロには、この宮殿を追われたモロ人の王ホアアナルとその一族の嘆きの鳴咽が聞こえて来る。この暗い空が、自ら棄いた美を捨てて落ちのびて行く無念さを、トレモロに乗せて私の心に迫ってくる。

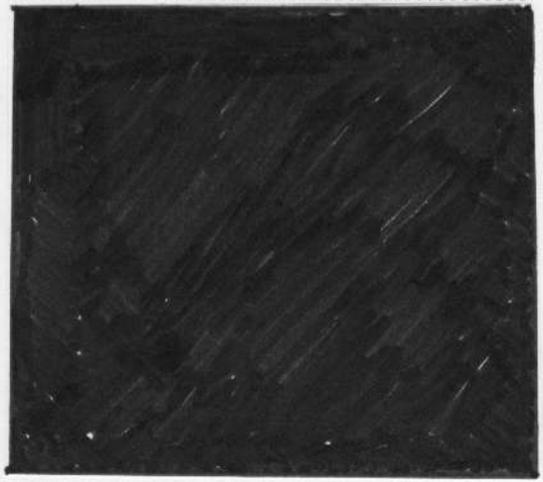
ナサリ王朝最後の王がアルハンブラを開城し、イサベルとフェルナンドに城の鍵を手渡したのは、1492年1月2日だと云う。奇しくも、今日はその開城記念日だ。私は本日一番の入場者だ。ならば私は、ホアアナルの鳴咽を聞き逃してはなるまい、と思つた。

◆新刊書案内◆ 第7期 金剛恵津子さんの著作作品です。 異次元絵本「グニヤム」

創元社刊 62年1月発売予定
梅井純子・作・画

皆さんは、M・C・エッシャーをご存じですか。魂が建物の下から上へ流れるような、目の錯覚を利用した一般に「だまし絵」と呼ばれる絵や、連続模様などで知られているオランダのグラフィック・アーティストです。この絵本は、絵本をただ単なる子供の領域にとどめずに、かつて子供だった人々、つまり年令を問わずすべての人に楽しんでもらえる絵本をめざす著者が、その最も尊敬する一人であるエッシャーの「あそびの精神」をふんだんに取り入れた、たいへんファンタジックな作品です。

あらすじ
魔法使いによってクッキーで作られたネコが、本物のねこになるために不思議なタメン星に旅立ちます。そこで、ねこのクッキーと



同じ形をした三つの黄金のプロックを捜し集めてこなければなりません。遊びの精神が絵本中に顔をのぞかせています。じつくりと見れば作者の隠された意図が見えてくるかも知れません。

62年1月発売の予定です。本屋さんでまずは手にとつてご覧下さい。はがきに住所・氏名を書いて次の宛先までお送り下さい。作者直筆にて発売日の案内状をさしあげます。
〒558 大阪市住吉区帝塚山東4-3-20
梅井 純子・K係



四つの絵の輪郭を比べてごらん下さい。

今でもギターやっています!

第11期 青木 朋幸

関大ギター部を卒業して12年たちました。現在もギターを愛好しております。卒業も近づいた頃「このままギターの道に入ろうか」と迷い続けるままサラリーマンの道に入ってしまったが、湧きあがる情熱の波打つままにギターを弾き続け、市民の為のギター同好会を設立して仲間をつくる等しては色々活動しました。



1984.11.18 西宮公会堂チャペルホールにて

そして4年前、森氏(同期)の結婚式で学生時代のライバルであった吉川二郎氏(関学ギター部OB、現在、作曲家・ギタリスト)と出会い、たちまちに意気投合して「ギターをいっしょにやるう」ということになり、年2~3回、西宮公会堂にて「Sunday Concert」を催し、私がクラシックとポピュラーを、吉川氏がコンサートフラメンコを演

竜也と篤史

第9期 木村 充夫

奏するコンサート活動を始めました。(写真はその時のスナップで、ラミネス三世を用いました。)レパートリーを充実させて、岡山―大阪―京都―名古屋―静岡―横浜―東京の太平洋ベルトコンサートツアーをやるかと計画しております。どうか皆さん、応援して下さい。

熱狂的な中日ドラゴンズファンのもとの昭和五六年四月に生れた長男は竜也と名付けられた。翌五十七年には、見事ドラゴンズはセリーグ優勝を遂げ、ヨチヨチ歩きも竜也は両親に連れられ日本シリーズ開催の西武球場へ応援に出かけた。その後ドラゴンズの成績は振るわないが、竜也はスワックと育ち今年から幼稚園である。

そして五十八年十月に生れた次男はドラゴンズに關係なく篤史と名付けられ三才になる。二人の性格は全く異なり、A型型の竜也は、やや神経質で几帳面であり、B型の篤史は物事に動じない凶太さと、ひょうきんさをあわせ持ち、アブである。親の欲目か親バカと言われようと、二人共大変可愛いのである。親として息子達に望むのは、美しいものに感動

し、いい音楽に耳を傾けるような、感性の豊かな子供に育ってほしいと思う。

私の大学時代の宝物である一九六八年製の田村満作のギターは、何年も押入れの片隅に眠っており、二人の息子達はまだ私がギターを弾くの聞いたことがない。それは私の宝物をまだ息子達のオモチャに譲ってしまおう気はないし、息子にも触られたくない親のオモチャがあつてもよいと思うからである。でも本当は今、まともに弾ける



曲が一曲もないからである。しかしいつの日か、パパはギターが弾けるのだと息子達から尊敬のまなざしで見られるのを楽しみにして聞かせてやりたいと思っている。

竜也は、今日幼稚園でドジョウつかみをやり、三匹持ち帰り、餌をやつて大事に育てたいと言っている。それを見ていた食いしんぼうの篤史は、ドジョウにやつた餌を食べたいと言ふ。二人共、愚息でも豚児でもいいから素直で大らかに育つてほしいと願うのである。

私たちの趣味

第16期 青木 秀展

第17期 青木 美樹(旧姓・山脇) 我々夫婦の共通の趣味は食へることです。(残念ながらギターではない) 息子孝太(一歳十一月)が出来るまでは、美味しい店とうわさを聞いては足を運んだのですが、今や二人で食事に行つても、味は舌に残らず疲れが身体に残る始末。

それでも年末に一年のまとめのごとく、泊まりがてらゆつくり美味しいものを食べに行くのだけは続けています。そこで昨年行つた三重県美杉村の「魚九」を紹介したいと思います。(我々は今年も予定しています)

大阪から国道183号線を通り、伊賀上野で忍者屋敷を見、更に南へと下つていくこと約一時間半で杉林の中の「魚九」に到着。観光地ではないのでまわりは山ばかり。時の流れが止まったかのような静寂の中、目をみながらゆつくりお湯につかり(親月露天風呂があります)一年の疲れがとけていく思いを味わいます。そして部屋にもとると、目的はやはり料理、鯛や伊勢海老の活造り、カニの姿煮、あまごの甘露煮、蒸し伊勢海老...と大食漢の我々でも食べきれないほどです。これで一人一泊一食つきで一万三千円。ちよつと足をのばせば一時間位で長島温泉へ。

ギター渡世

MY DEAR GUITAR LIFE!!
作. Skimpei. (笑)



梅田のモンマルトルというスナックを借り切って行いました。 「モンマルトル・コンサート」

第10期 小柳 豊茂

事の起りは、OB会幹事を数ヶ月前にした梅雨時分、総会の段取りを決める学年代表の会合が終了した後であった。

「まあ、お茶でも飲んで行こう。」と先輩の上田新平氏の一言で行った喫茶店で驚くべき事を聞かされた。

その時同席していたのは、九期の竹本、高本両氏で、学生当時の両氏は知らない人も知っている「イチビリ」の名家、元祖、総本店で私もそれは知っていたが、社会人となつて15年近くにもなるとその偉力も萎えたものと思っていたが、なかなかしぶとく待ち続けていた様です。その驚くべき事とは、近くキタのスナック「モンマルトル」でコンサートをやる事、もうあんまり日程もないのでいつても練習出来る様に楽譜をいつも持っている事など。私は10何年という歳月は「イチビリ」

をも格調高くするなあと感じ、尊敬の目で見るからか又、もともとなのか、竹本氏が眩しく見えました。

7月5日当日の夜、私は同期の浅野氏と共に「モンマルトル」へタクシーを走らせた。場所は阪急東通り商店街の東のはずれのすれ、雑居ビルの4Fにあつた。ドアを開けると6坪程のスペースに10人ぐらいの男女がいてもう始まっていた。曲はラテンナンバーでふとメンバーを見ると九期の井上氏も加わっていた。



ラテンを叩く、竹本、井上、高本の3氏



歌も一流、浅野氏とフルートから妙な楽器に転向した上田氏



板橋演奏をずる々筆者

とにかくかわいいんです！

私の甥っ子！

第22期 菅野 美代

私の姉には満二歳になる男の子がいます。和太（かずひろ）という名ですが、この子のお陰で、私は、私は……オバサンになつてしまつたんです。なんて、当り前のことなのですが、ちよつと理由があつて、七ヶ月ほど、生活を共にしたら、もう、可愛いくつて、目の中に入れて、きつと、痛いと思うけど、口の中に入れて入れてあげてもいいや。と思うくらい（子どもが嫌がるかな……）とにかく可愛い。お互いに、精神年齢が高い……ものだから、朝、昼、晩、ずっと一緒に同じ次元で遊べるのが面白くて、体力は必要だけ

「陶芸に燃ゆ」第6期 松山彰輝氏

兵庫県電野市に松山さんの「龍野窯」があり、「孔雀焼」という美しい磁器を創作されている。その名の通り鮮やかな発色が特徴で、窯変により器のあちこちに緑や赤の斑点が出来る、大変個性の強い磁器として名高い。今年の9月19日発行のアサヒファミリーにも紹介され、脚光を浴びている。

孔雀焼窯元
龍野窯
〒679-41 電野市清西町小増267-19
TEL (0791) 63-2388



と、飽きません。この前も、五十首の書いた積木（片面に絵が画いてあつて、もう片面に平仮名の書いてあるもの）で遊んでたら、「これなに？」って聞くんです。私が「えび」と答えると、「カチこいノカチこい」と言いながら小さな手で、私の頭なでにくるし、返事しないでいると「これ、ウシ、モーサン」って、満足げに教えてくれたりもします。半年前までは「マンマ」と「バイバイ」くらいしか言えないでいたのに。この時期は、本当に不思議なくらい成長が早く、感心してしまいます。今が一番、可愛い時期だつて言うので、このまま大きくならなければいいのに（ついでに、私も）と思つたりしますけど、でも、やっぱり、早く大きくなって欲しいなと思う。今日の頃です。

編集後記

第9期 高本 健児

「機関誌の？」編集の？、思わず私は口走つた。「大事な話がある」と同期の竹本氏に、梅田のスナックへ呼び出された夜の事であった。どうせ彼の事だから、カラオケの新曲を覚えたらから聴いてくれとか、「安くてうまい酒を見つけた」とか、「ミナミでナンバ、いやナンバしようとして失敗した」とか、大方そんなところだろうと思つたのであつた。が、以外以外、マジだったのである。彼は学年幹事で、幹事会の打ち合せによく出かけている。幹事会の席で彼は発言した。「機関誌を作りましょう。適任者がいます。」満場一致で即決した。無論、私は不在であつた。幹事の集りとは恐ろしいものである。梅田のスナックで言われた。「そ、そんな事言われても……」私はすくんだ。しかし、彼の顔面上部から放つ魔法の光に照らされ、また、時たま微笑浮べる顔からは、特殊な男關係を強いられる気がして、「やっ、やっ」と言つてしまつたのである。てな具合でスタートした訳だが、やり出して見て、まず驚いた事がある。数年前に成人式を迎へたばかりという若者から、空襲警報が鳴ると田親に手を引かれ防空壕に飛び込んだという長老（植田さん）が「モンナサイ」まで実在中が広いのである。これは手こわい、アホなオレにや出来るメエとも思つたが、気を取り直して、何とか発行にこぎつけたのである。そんな訳で創刊号が出来ました。最後になりましたが、発行にあたってお骨折下さつた各幹事の方、執筆者の方に厚くお礼申し上げます。